

2018年度の運動方針を確立



2018.10.5
NO.623号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
☎06-6574-8424
☎078-303-0800
全港湾一人
でも入れます



9月12・13日に、全港湾第89回定期全国大会が沖繩のかりゆしアーバンリゾート那覇で開催されました。阪神支部から代議員8名、特別代議員8名、傍聴16名が参加しました。議長団選出後、代表挨拶に立った松本中央執行委員長は「自民党が身勝手なことができるのは労働組合が弱いからであり、全港湾が労働組合の先頭に立つて活動を活発に行ない、日本の労働運動をしっかりとついでいく必要がある」と呼びかけました。

来賓挨拶に立った全港湾の糸谷委員長は「中央団交において港湾産別最賃について日本港運協会は、独占禁止法を盾に、交渉に応じよつとしないなど極めて不誠実な態度である」と批判し、労働委員会に提訴したが、前進しない場合は、ストライキで解決を目指す。その中心単組は全港湾であると高く評価された。

また、次週の全国港湾定期大会での活発な討議を要請されました。

質疑討論では阪神支部からも代議員、特別代議員を合わせて8名が発言し、活

大会発言

発な討論がされました。新規分会紹介ではキズナツクス分会の紹介があり、分会旗が授与されました。決議では代議員の無記名投票による年間スト権を確立し、17年度活動報告及び18年度の運動方針案、「辺野古新基地建設阻止、平和と民主主義を取り戻す」特別決議案及び大会宣言案が

提案され、満場一致で採択、確立されました。また、役員改選では松本委員長が退任し、新たに真島書記長が中央執行委員長に選任され、松永副委員長が書記長に選任されました。最後に真島新中央執行委員長の団結ガンバロウで散会しました。



「ハマキヨウレックス 長澤運輸事件について」
正規と非正規社員の賃金以外の手当ての差別が問題になっているが、定年後の再雇用で働く労働者の賃金も仕事の内容が変わらないのに大幅に削られるなどの不合理な格差の是正を目指し労働条件の向上を行うべき。そのためには定年を65歳にまで引き上げるべき。

副委員長 南 修二



「長時間労働について」
働き方改革関連法案が可決された。厚生労働委員会では、年間3300時間、月間275時間に見直すよう要請されているがそれでは

副委員長 中山 寛治郎

「大会特別投稿」
「知ってはいけない一隠された日本の支配構造」矢部宏治著4コマ漫画と「沖繩の戦後米軍基地の支配の構造と辺野古新基地建設の目的」12が配布された。「日本の米軍について」

「日検闘争について」
労働委員会からの団交拒否の救済命令交付が遅れているが、年内には出される予定。指定事業者の直接雇用の問題、組合員の賃金力ツトの問題で運動を行って

副委員長 松本 栄二



「平家物語」に歌がある。もえ出るも枯るるもおなじ野辺の草いづれか秋にあはではつべき 芽吹いたばかりの若葉も枯れ落ちた葉も草木はみな同じ。すべてに等しく寂しい秋がめぐる。祇王が詠んだこの歌は、「秋」に「飽き」をかけ人心の移ろいやすさを表したとされる

政治家としての実りやつまずきを振り返ると、この方も秋に縁が深い。初めて内閣を立ち上げたとき。世の不評と自らの病によって総理を辞したとき。自民党総裁に返り咲いたとき。安倍首相が総裁選で連続3選を決めた。陣営の組織力と締めつけで「人の従ひつること、吹く風の草木をなびかすがごとし」(平家物語)の勝ちぶりが予想されたが、結果を見てみたら少し違った。安倍氏553票、対する石破氏は254票。数の上では確かに大差がついたが、陣営は「600票」を視野に入れていた。少なからぬ人の心が移ろったことを安倍一門はとう見らるだろう。首相はこれからの政権運営について「謙虚に丁寧に」と語っている。言葉が行動をとるもなわいなら、すぐに冷たい「秋(飽き)の風」が吹く。

書記長 河野 昭宣



「日検闘争について」
労働委員会からの団交拒否の救済命令交付が遅れているが、年内には出される予定。指定事業者の直接雇用の問題、組合員の賃金力ツトの問題で運動を行って

副委員長 松本 栄二



「飽き」をかけた人心の移ろいやすさを表したとされる政治家としての実りやつまずきを振り返ると、この方も秋に縁が深い。初めて内閣を立ち上げたとき。世の不評と自らの病によって総理を辞したとき。自民党総裁に返り咲いたとき。安倍首相が総裁選で連続3選を決めた。陣営の組織力と締めつけで「人の従ひつること、吹く風の草木をなびかすがごとし」(平家物語)の勝ちぶりが予想されたが、結果を見てみたら少し違った。安倍氏553票、対する石破氏は254票。数の上では確かに大差がついたが、陣営は「600票」を視野に入れていた。少なからぬ人の心が移ろったことを安倍一門はとう見らるだろう。首相はこれからの政権運営について「謙虚に丁寧に」と語っている。言葉が行動をとるもなわいなら、すぐに冷たい「秋(飽き)の風」が吹く。

「コンテナの内陸輸送
について」

各地方調査の結果、またそれに基ついた対策など報告がなく、議案書にも全く書かれていない。内陸輸送は港湾労働者の職域を守ることが前提であつて、全港湾の最大の課題として将来を見据えて運動に取り組むべきである。

書記次長 久保田 稔



「特定外来生物
について」

議案書の運動の経過と総括、運動方針にも一切書かれていない。この問題は解決したわけではなくこの先取り扱ふべき問題であるため、運動方針に記載するべきである。

副委員長 坂本 幸治



「海コン特殊車両の
通行について」

生産性革命のためにトラック通行道路などでは重点支援を実施するため、道路法改正をして40フィート96コンテナトラックの通行許

可を免除するとなつているが、安全と円滑な通行を無視し、海上コンテナ内陸輸送が容易になり、そちらに集まつていく恐れがある。

「運賃料金について」
適正運賃の強化、標準貨物運送約款が改正された運賃と運送依頼の料金を別で請求できるように変わったので全港湾として徹底していくべき。

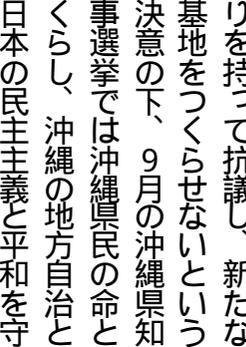
副委員長 井ノ元 宏樹



「辺野古新基地建設
反対について」

「戦争するための基地づくり」は断じて容認できない。安倍政権に対し強い怒りを持って抗議し、新たな基地をつくらせないという決意の下、9月の沖縄県知事選挙では沖縄県民の命と

副委員長 矢野 佑樹



日本の民主主義と平和を守るため、オール沖縄の県民と連帯して、たたかうことを全港湾として宣言していただきたい。

執行委員 中嶋 敦允



初参加者感想

会場の大きさや参加者の多さに圧倒されました。討論は各地方より多数の質疑が出され充実した大会であると感じました。今後の執行部の活動へ活かしていきたいです。

執行委員 池口 光洋



議題討論に入ると質疑の多さに驚きました。中でも阪神支部からの発言は要点を簡潔にまとめ分かりやすく伝えられていたので、勉強になりました。

執行委員 中嶋 敦允



自分達だけじゃない一緒にたたかう仲間がいる大切さ、ありがたさ、たくさん支えてくれる多くの仲間が必要だということを感じました。組員が心を一つに長期にわたり港湾産別をたたかって勝ち取った力は凄いなと思いました。港湾課題を一緒に考え、同じ種別の方との繋がりもでき、こ

れからの組合活動と仕事を続けていく上での視野も広がりました。

日本コンテナ輸送分会 柏木 聖



全国各地方から集まった皆さんが、議題に沿った諸問題について真剣に議論していること、2日間では収まらないほどの質疑の多さに大変驚きました。

大運分会 上田 周一



沖縄セメント工業のたまたかいの報告などがあり、他の地本、全国で様々なたたかいが行われていることを実感しました。

全日検神戸分会 河本 英博



いろいろな方の意見や思

いを聞くことができ、あらためて全港湾の偉大さを感じました。支部の方々と交流ができ、今後の活動にもプラスになると感じました。

大洋運輸分会 飯田 恭介



交流会を含め、先輩方の話を聞いて、また4年目の私には色々勉強になりました。自分も先輩方のようになれるか不安もあります。が、頑張りたいと思ひます。

菱倉分会 菊田 直希



全国港湾第11回定期大会

9月19・20日に豊橋シーパレスにて全国港湾第11回定期大会が、総勢295名、阪神支部からは10名が出席のもと開催されました。

系谷委員長は挨拶の中で「沖縄知事選では在日米軍沖縄辺野古新基地建設が最大の焦点となるが、立候補された玉城デニー氏や基地建設反対の運動を労働組合としてどのように支援できるのかを大会を通して議論を深め、自公政権ノーを明確にしていこう」と宣言されました。更には、日本港湾協会の独禁法問題にも触れられ「労働委員会の見解が重要となるが、最低賃金を含めた産別協定を日港協が受け入れられないとなれば、ストライキ等どのような行動がとれるのかを統一

していく。そして、港湾の自動化についても、人手不足は事実かも知れないが論議のすり替えをさせてはならない。労働者に対してどのように還元できるのかを考えさせる必要がある」と述べられました。

玉田書記長は17年度の主な取り組み及び経過の中で「災害続きである日本では物流の大切さが再認識されているが、港湾物流へ政策では、港湾労働者の雇用と労働条件向上の政策が脱落しているため、港湾産別協定の発展と取組の重要性」を述べられました。

質疑討論では阪神支部からも4件の質疑があり、松本副委員長からは、自然災害発生時の港湾労働者の安全最優先に向けたルールの策定について、坂本

副委員長からは特定外来生物への対処についての質疑をされ、「現場で働く労働者の安全の確保が何よりも最優先されるべきと認識しており、行政や事業者に対して、対策を急ぐ様声高に発信していく」との答弁がありました。

井ノ元副委員長は、液体輸送のフレキシブルバッグ使用による漏洩問題で、運動の成果により一定のガイドラインが策定された事に感謝の意を述べられ、「今後もタンクコンテナ輸送への切り替えを継続する事、加えて重要特定道路におけるの通行許可不要によって発生する問題について危惧している」との訴えがありました。

中山副委員長は独禁法問題に触れられ、「ストライキや法廷闘争を否定はしないが、労働組合として宣伝行動や運動で世間にアピールし、難局を突破する方法もあるのではないか」と説かれました。

総括答弁で系谷委員長は「多くの質疑について、新執行部で協議し、取組んでいく」と述べられました。役員改選では、さらなる運動の強化・発展のため、委員長代行職を新設し、全港湾の前委員長である松本耕三氏が選出され、大会が終了しました。執行委員 入江 友規

戦争をする国づくりで沖縄が再び戦場に 改めて平和の大切さを実感



うるし塗りの修復工事が行われる世界遺産首里城

9月14日、二日間にわたる全港湾第89回定期全国大会を終えた阪神支部の参加者、総勢31名は大会の疲れをもとせず、沖縄視察観光を行いました。

最初に訪れたのは沖縄を450年間に渡って統治していた琉球王国の中心的シンボルの首里城。

首里城は、琉球王国の国王とその家族が居住する「王家の居城」と同時に、王国統治の行政機関であった「首里王府」の本部でもありました。

また、首里城とその周辺では芸能・音楽・美術・工芸の専門家が数多く活躍しており、琉球王国の文化芸術の中心でもありました。太平洋戦争の際には、日

本軍の駐屯地・各種の学校等として使用されましたが、1945年、アメリカ軍の攻撃を受けて全焼してしまいました。

戦後、跡地は琉球大学のキャンパスとして使用されましたが、大学が移転され首里城の復元事業がすすめられて現在に至っているそうです。

2000年12月には、日本で11番目の世界遺産として首里城は、文化遺産に認定され登録されました。私たちが訪れた日も朱塗りの塗り替えやあちこちで修復工事が行われていました。

首里城を後にし、次に向かったのは沖縄ワールド。鍾乳石の数が100万本以上で国内最多、全長は5



玉泉洞のある沖縄ワールド

000メートルで国内最大級といわれる天然記念物の玉泉洞は、県民で知らない人がいないほどの有名な観光鍾乳洞だそうです。

沖縄本島には約2000の石灰岩で形成された鍾乳洞があり、沖縄方言で「ガマ」と呼ばれます。沖縄戦では、住民や日本兵の避難場所として、また野戦病院として利用された「ガマ」

のイメージが強く、観光鍾乳洞があるのは初めて知りました。バスを降り立った一行は、あたり一面に漂う午舎の臭いに辟易とし、「こんなところ食欲わかへんな」との言葉をよそよそしく、食欲が旺盛となり、新鮮な鳥野菜やハーブ、魚介類など沖縄食材を味わいました。

最後に向かったのは、ひめゆりの塔。島袋淑子さんは1945年3月、大日本帝国軍の看護要員として戦場に動員された女子学生

「ひめゆり学徒隊」222人のうちの1人。現在は「ひめゆり平和祈念資料館」の館長を務めます。



黙祷を捧げる(ひめゆりの塔にて)

死んだ人、崖から海に飛び込んだ人、投降するより手りゅう弾で自爆を選んだ人たちもいたと言います。

島袋さんたちは壕に残ってみな一緒に死ぬことを望みましたが、日本兵に外に出されてしまい、すぐに殺されたり重傷を負ったりした人たちもいました。

島袋さんたちは負傷者を一緒に連れて行くことはできず、置き去りにせざるを得なかった。と今も死んだ友人の夢を見て、叫びながら目を覚ますそうです。

島袋さんは、辺野古の新基地建設や憲法改正等々の一連の政府の動向に沖縄が再び戦場となるのではないかと恐れているそうです。

あまりに悲惨な戦争時の資料や写真にみな寡黙になりひめゆりの塔を後にしました。沖縄視察観光は、改めて平和であることの大切さを考えさせられるものとなりました。

副委員長 谷口 利之

自民党総裁選の結果、安倍晋三氏(首相)が3選されました。総裁の任期は2021年までの3年間です。安倍氏は総裁選で、「次の3年間、日本の新しい国づくりに挑戦したい」と、改憲も内政・外交政策の見直しも、自らの任期中に成し遂げる考えを強調しました。安倍氏が成し遂げようとしていることは危険です。改憲や暮らしの破壊を許さない、国民のたたかいを強化するべきです。

次の国会に提出すると言い出しました。3年の任期中に国会での改憲発議や国民投票を含め、改憲実現に「チャレンジ」したいと期限を切ったのです。安倍氏が改憲を最大の課題としたことは重大です。

主張

改憲派の「産経」の世論調査でも、自民党の改憲案を秋の臨時国会に提出する方針に賛成は38.8%、反対は51.1%です。

9条改憲をさせるな！戦争する国造りを許さない！

戦争法の最大の口実になってきた北朝鮮の脅威をめぐり、米朝首脳会談が開催されるなど朝鮮半島で劇的な緊張緩和への動きが起ころい、その根拠は大きく崩れつつあります。「北朝鮮

の脅威」という口実が崩れてもあくまで9条改憲を行おうとしています。防衛省・自衛隊の組織的隠蔽(いんぺい)が明らかになった南スーダンに派兵されていた自衛隊部隊の実態も、戦争法の危険を鮮明にしました。戦争法に基づき武器使用が認められた「駆け付け警護」任務が付与され、自衛隊員が「殺し、殺される」危険をさらすに高めました。今も自衛隊

は戦争法発動のための訓練を重ねています。海外での無制限の武力行使を可能にする「戦争する国」づくりを本格的に狙う首相の姿勢は重大です。

9条改憲を許さず、戦争法の一刻も早い廃止と立憲主義の回復が急務となっています。引き続き政権を担当する安倍政権とのたたかいが重要です。自民党総裁の3年の任期を待たず、「アベ政治を許さない」機運を上げる運動で一刻も早く退陣させることこそ、国民には最良の対策です。

「歩み」

平和で豊かな島を取り戻す
翁長氏の道志を引き継ぐ
玉城デニー候補 沖縄知事選

翁長雄志沖縄県知事の急逝にもなつ沖縄県知事選挙が9月13日告示、30日投票でたたかわれました。

この選挙は、沖縄県名護市辺野古への新基地建設の強行を許さず、基地負担の軽減を求め、平和で豊かな島の実現を願う沖縄県民の未来をかけた選挙です。

同時に、憲法9条に自衛隊を明記し、戦争する国に邁進している安倍政権の暴走、立憲主義を踏みにじる強権政治への審判の意味をもつ重要な選挙です。

6月23日の「沖縄全戦没者追悼式」で翁長知事は、唯一地上戦が行われた沖縄の心が平和の希求にあること、在日米軍専用施設面積の70%が沖縄に集中する苦悩を語り、20年以上も前に合意した辺野古への移設が普大間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのかと糾弾し、「辺野古に新基地は造らせない」という決意は沖縄県民とともにあると宣言しました。

翁長知事は生前、「イデオロギーよりアイデンティティ」、「基地は沖縄経済の最大の阻害要因」との立場で、保守と革新が共闘する「オール沖縄」の力で、「普大間基地の即時閉鎖と撤去、県内移設断念、オスプレイ配備中止」の建白書の実現をめざし邁進されました。

知事就任後も、政府の様々な妨害や、機動隊などを動員した基地建設の押し付けを跳ねのけ、安倍政権と真つ向から対決し続けた原動力は、「オール沖縄」の組織でありました。

沖縄のたたかいは「戦争法反対、野党は共闘」の市民連合の運動に引き継がれ「市民と野党の共闘こそ安倍政権と対決する道」との共感が高まり、その後の国政選挙に大きな影響を与えました。まさに「オール沖縄」のたたかいは「オールジャパン」のたたかいです。安倍政権は、辺野古への土砂投入強行の姿勢を示し、自民党総裁選挙で憲法9条改憲発議を公言するな

ど、戦争する国への暴走をさらに強めています。その情勢下での沖縄県知事選挙で、自公と日本維新の会は、国政選挙並みの取り組みを行っています。

「オール沖縄」の玉城デニー勝利へ

翁長知事の後継候補として「オール沖縄」の総意で立候補した玉城デニー氏は、2015年夏の安保法制「戦争法反対のたたかい以降、国会前をはじめとするたたかいに繰り返し参加し、市民と野党の共闘の前

進に大きな役割を發揮してこられました。「戦後の米軍基地被害を体現する人であり、固い信念をもった政治家」です。残念ながら今号「歩み」の編集日が9月21日。選挙期間中での作成となり、皆さんがこの記事を読む頃には、新知事が決まっています。

大阪交通運輸労働組合共闘会議（以下、交通共闘）では、陸・海・空・港湾の官民の職場で働く仲間たちが結集し、安心安全な労働環境を目指し日々奮闘しています。その運動の一環として、未曾有の大規模災害となった東日本大震災の復興状況を3年前に視察しました。今回はあらためて3年の期間を経て岩手県と宮城県で生活する住民の足を守る交通政策の現状と課題について視察調査を行いました。

震災を教訓に自然災害に備える
大阪交通運輸労働組合共闘会議

調査団は関西大学（社会安全学部）西村弘教授を団長とし交通共闘の仲間11名が参加しました。現地の復旧状況を見て回り、盛り土による地盤のかさ上げや大型の治水堤防の建設は進んでいますが、地域住民の日常生活面ではなかなか進んでいない状況で完全復旧にはまだまだ時間が必要である状況でした。



被災時の姿そのままに

今視察では南三陸町町の長の佐藤仁氏とのヒアリング調査も行い、国の施策として、当初震災後の5年間行われていた「調査事業」について、どのように活用されたか、また現



視察調査団一同

状と今後の予定。震災後、高台への居住地域移設に伴い新旧集落地域が点在する事になったが、住民の足を守る町内のコミュニティ交通にどう対処されたか。また、それら施策への住民の評価はどうなのか。

地域住民の広域移動の確保として実施されたBRT（バス・ラピッド・トランジット）について、利用する住民の評価や速達・定時制の確保状況、また規制緩和後、公共交通でも撤退の自由が原則認められており、鉄路でないバスにはなお更の懸念があるように思われる。JRとの関係や対応も含めての現状。

三陸復興道路や復興支援道路などの高速道路の建設が進んでいるが、その状況ならびに活用策について。震災後、人口流出が続いているが現状はどうなのか。また人口減は税収減につながるが予算配分率等の推移について、など意見交換がされました。

現地で生活する住民の一刻も早い復興を心より願う

分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】

うどんに1こ カレーライスに2こ みそ汁に3こ入るものって何でしょう？

622号の回答

「9里=35.4キロメートル（これをセンチになおす）」

6名の方から応募があり、5名の方が正解でした。以下の5名に図書カードを進呈します。

西田哲也・柳田彩加・塚原美琴・平田育稔・河上あゆみ（ジャパンエクスプレス）

623号の締め切り日は、11月5日（木）です。ふるって応募ください。

とともに、今後発生する南海トラフ大地震による大規模災害に備え、各分野で対応していく為にも、被災地の経験に基づき実践や問題を克服に向けた取り組み等を学び活かしていきたいと考えています。

副委員長 南 修三